

要 望 書

下北半島縦貫道路の整備促進について

青 森 県 む つ 市
青 森 県 む つ 市 議 会

下北半島縦貫道路の整備促進について

【要 旨】

東北縦貫自動車道八戸線に連結し、その機能を最大限発揮する地域高規格道路「下北半島縦貫道路」の早期供用を図り、地域・拠点の連携を確保しストック効果をより高めるため、既着手区間の整備促進と「むつ市内の未着手区間」の早期事業化を要望します。

【理 由】

当市での道路行政の推進につきまして、平素から特段のご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災では、大規模な損傷がなく震災翌日には緊急車両が通行可能となった高速道路と国道279号は連携して復旧支援等に重要な役割を果たしました。

平成24年2月の暴風雪時にも「下北半島縦貫道路」の供用区間においては、その影響が少なく除雪作業の応援、一般車両の災害回避等に大いに役立ちました。

こうしたことから、平成27年12月に策定した「むつ市国土強靱化地域計画」には災害時の半島孤立化を回避する唯一の事業として「下北半島縦貫道路」の早期整備を位置づけています。

「下北半島縦貫道路」約68kmは、平成7年度に整備着手され、これまで供用された「野辺地バイパス」、「有戸バイパス」、「有戸北バイパス」19.5kmにおいて、沿線自治体の雇用の増加や交通事故の減少などの「ストック効果」が発現されています。

また、平成28年度は横浜北バイパスが新規事業化となり、平成

29年度には吹越バイパスの供用が予定され、着実に整備がすすめられていることにより、三次救急医療圏域の拡大や優れた県産品の流通拡大が図られるなど、さらなる「ストック効果」がもたらされることとなります。

災害に強く、安全で安心して暮らし人口減少の克服や地方創生を実現する下北半島地域をつくり、さらには国土の強靱化を図るためには下北半島縦貫道路全線の早期整備が不可欠です。

つきましては、既着手区間の整備促進のための予算の確保と「むつ市内の未着手区間」約10kmについて、早期事業化していただきますようよろしくお願いいたします。

平成29年 月 日

む つ 市 長 宮 下 宗 一 郎

む つ 市 議 会 議 長 浅 利 竹 二 郎

